

鳥取の銭湯

神戸市の下町・長田区で私は生まれ育った。自宅より5分以内のところに4軒もの風呂屋（銭湯）があった。まだテレビが一般家庭に普及していない頃、大相撲、プロレス、野球がある時には、銭湯の脱衣場は人で溢れていた。そしてそこは人と人とが挨拶を交わし近況を語り合う、まさに裸と裸のお付き合いの社交場。これは日本独特の一つの文化でもある。

近年の日本住宅事情の変化で、新しく建つ家には必ず風呂が付いている。それは銭湯の文化が地域コミュニティや社交場の役割の終焉にもつながっていった。全国的に銭湯の数は1965（昭和40）年には約2万2000軒あった。そして50年が経過した2005（平成17）年では5267軒にまで減っている。

鳥取駅前より徒歩数分のところに公衆浴場が4軒ある。その中の日乃丸温泉に行った。朝6時より夜12時まで営業している。私は朝8時過ぎに入ったが地元常連客で結構賑わっていた。料金は大人350円で番台のおばちゃんに渡す。少々熱めのお湯であったが源泉掛け流しの本物の温泉であった。寒い鳥取の冬ではあったが身体はポカポカ。薄着のまま鳥取駅まで歩いた。

時代は新しい潮流を生んでいる。「スーパー銭湯」がそれだ。露天風呂、サウナ、スチーム、水風呂、電気風呂、薬湯、ジェットバス、更にはマッサージから美容に至るまで。そして食事処、休憩場、売店、床屋。楽しむ銭湯に日本文化は進んでいるようだ。 撮影 2013年冬

